

〈地域コラム〉

サポートルームの取組

鳥取市総合教育センター児童生徒支援係

サポートルームとは

サポートルームとは、保護者や学校、関係諸機関との連携を図りながら児童生徒の学校復帰や社会的自立に向けて不登校及び不登校傾向などにより欠席日数の多い児童生徒の心に寄り添い、個に応じた学習活動や学び合い活動を取り入れて学習への意欲や集団活動への自信を高めていけるよう支援する場所です。

利用対象者は、学校に登校したいという気持ちがあるけれど、登校できない鳥取市在住の児童生徒です。

鳥取市では、平成10年度より、「すなはま」(原則として学校の授業日に開室)、平成29年度より鳥取市西地域に「レインボー」(週3日開室)、令和3年度より鳥取市南地域に「かわはら」(利用者と相談の上開室日を設定)を開設しています。また、令和5年度よりオンラインサポートルームを開設し、ICTを活用しながらの児童生徒の支援にも取り組んでいます。



支援の方向性

サポートルームでは、児童生徒が自らの進路を主体的にとらえ、社会的に自立することを目指して、学校や保護者と密に連携しながら児童生徒の支援を行っています。また、必要に応じて関係機関等とも連携をしています。学校では集団の中での学習の定着や人間関係づくりなど学ぶことはたくさんあります。しかし、児童生徒の中には個別に支援が必要だったり、集団が苦手だったりするために不登校または不登校傾向になる場合もあります。

サポートルームの利用にあたっては、児童生徒のニーズに合わせて保護者や学校と児童生徒の様子や学校復帰、社会的な自立に向けた目標を共有しています。サポートルームと学校を併用しながら社会的自立を目指すことも大切にしていますが、学校への登校が難しい場合は、学校復帰だけではなく、中には家から戸外へ出ることを目標にしている児童生徒もおり、目標は様々です。そのため、来室日数や来室時間は一人ひとりの状況によって異なります。保護者には、送迎時に直接児童生徒の様子を伝えたり、保護者の要望を聞いたりしてタイムリーな支援につなげています。また、参観日、懇談会等を実施し、必要に応じて学校に情報提供したり、毎月月末には報告も行ったりしています。学校復帰を目指す場合には、そのスケジュールを示してもらい、サポートルームでも学校行事等に見通しをもって参加できるように働きかけています。また、それらの情報は保護者とも共有し、必要に応じて、目標の修正や追加を行いながら支援をしています。サポートルームでの経験や学びを通して、児童生徒が自分に自信をもち、

将来に生かしてもらえるよう支援しています。

支援内容

サポートルームでは、主に次の3つの支援を行っています。

① 自立支援

規則的・計画的な生活を通して、基本的な生活習慣が身に付くように支援し、教育指導員とのよりよい人間関係を構築したり、小集団活動や様々な体験を通して集団への適応能力の向上を図ったりしています。

② 学習支援

基本的に自学自習の中で、児童生徒の学習状況や興味関心に応じて、学習内容を補足し、学習意欲を高めたり、学習習慣を身に付けたりできるように支援しています。




③ 教育相談

一人ひとりの抱えている課題に対して前向きに取り組めるよう、温かい人間関係づくりや環境づくりに努めています。児童生徒の心に寄り添い、直接不安や悩みを聞いたり、保護者の話を聞いたりしながら、タイムリーで適切な支援につなげられるよう、学校や関係諸機関等と連携しています。

サポートルームの取組

サポートルームの活動は大きく分けて3つあり、1週間の予定表にそって取り組んでいます。

<1週間の予定表>

		月	火	水	木	金	
午前	9:30~9:45	来室・読書・今日の学習予定を決める					
	9:45~10:00	朝の会・ラジオ体操					
	10:00~10:50	自主学習	ふれあい活動	 自主学習	自主学習		
	10:50~11:00	休けい		休けい			
	11:00~11:50	自主学習		 自主学習	11:00~11:20 自主学習		
					11:25~11:35 そうじ		
11:40~11:50 読み聞かせ							
11:50~12:00	すなくまタイム	 すなくまタイム		ふいかえり			
午後	12:00~13:00	昼食(お弁当)・休けい				12:00 帰宅	
	13:00~14:10	学び合い活動	ふれあい活動	学び合い活動	スポーツ(体育館)		
	14:10~14:30	自由活動・ふいかえり・帰宅					

* 金曜日の午後はチャレンジ登校(個別に設定)

* 毎月最終金曜日は閉室

①自主学習

個々の状況に応じて児童生徒が主体的に決めた内容にそれぞれのペースで取り組みます。漢字・計算ドリル、プリント、問題集の他、タブレットを使った学習などに個別に取り組んでいます。周囲のことが気になったり、集団が苦手だったりする児童生徒もいます。子どもたちのニーズに合わせて、パーテーションで区切ったり、部屋を分けたりして、学習しやすい環境になるよう工夫しています。



②学び合い活動



小集団で活動することを通して集団への適応力や社会性を培うことを目的に、週3日、午後の1時間を活用して、生活体験を広げています。年間を通しては、農園作業、調理実習、茶道体験、手話教室、アート制作、スポーツ、デイサービスや保育園との交流体験の準備等、小集団で様々な活動に取り組んでいます。人との関わりがうまくできなかったり、不安を抱えたりしている児童生徒も少なくありません。そこで、学び合い活動の中でソーシャルスキルトレーニングやリフレーミングも取り入れています。

③ふれあい活動

体験を通して地域のよさを感じたり、人との関わり方や社会性を培ったりすることを目的に、原則毎週火曜日、1日または午前半日を単位として多様な活動をしています。地域の社会施設や人材を活用し、登山や地域散策、動物とのふれあい等の自然体験活動、新聞社や警察学校見学等の社会体験活動等、体験活動で身に付けたい領域を「勤労生産」「創造・文化」「自然体験」「社会体験」の4つに分け、バランスよく計画しています。



おわりに

不登校児童生徒が増加する中、支援ニーズも多岐に渡っています。サポートルームでは、周囲の勧めで通っているうちに安心できる場所になっていく姿もよく見られますが、子ども一人ひとり、何かをやってみようと思うタイミングは違うものです。だからこそ、学校や家庭とのより緊密な連携が必要だと感じています。サポートルームでは、本人の支援ニーズをできるだけ把握し、一人ひとりに合った支援が行えるよう、学校や保護者はもちろん、必要に応じて関係諸機関と連携しながら今後も支援していきたいと考えています。